

彙 報

会 長 窪 蘭 晴 夫

——常任委員会——

2017 年度第 1 回常任委員会

日 時：2017 年 5 月 21 日(日)11:00～17:30

場 所：東京大学本郷キャンパス 文学部 3 号館 6 階 3604 室

出席者：窪蘭晴夫(会長), 有田節子, 井上 優, 上山あゆみ, 加藤重広, 小泉政利, 小林正人, 斎藤 衛, 玉岡賀津雄, 吉田和彦(以上, 常任委員), 野田尚史(事務局長)
オブザーバー：内海敦子(大会運営委員長), 中谷健太郎(広報委員長), 佐久間淳一(夏期講座委員長), 金城由美子, 内藤真帆(事務局委員)

(欠席：金水 敏 編集委員長)

[報告事項]

(1) 今期の組織・役員について

・今期の組織・役員が資料によって確認された。

(2) 今後の大会開催予定について

・以下の予定が報告された。

第 154 回大会 (2017 年春季大会)：2017 年 6 月 24～25 日(予定), 首都大学東京(大会実行委員長：小川定義氏)

第 155 回大会 (2017 年秋季大会)：2017 年 11 月 25～26 日(予定), 立命館大学衣笠キャンパス(大会実行委員長：有田節子氏)

第 156 回大会 (2018 年春季大会)：2018 年 6 月 23～24 日(予定), 東京大学本郷キャンパス(大会実行委員長：西村義樹氏)

第 157 回大会 (2018 年秋季大会)：2018 年 11 月 17～18 日(予定), 京都大学吉田キャンパス(大会実行委員長：吉田和彦氏)

(3) 2017 年度科学研究費研究成果公開促進費について

・研究成果公開促進費(国際情報発信強化)に応募したが, 不採択であったことが報告された。

(4) 各種委員会からの報告

・本彙報の各委員会の項目を参照。

(5) 言語系学会連合からの報告

・言語系学会連合運営委員である小林正人氏より, 2016 年度は幹事学会として, 2017 年 1 月 21 日に公開シンポジウム『オノマトベの魅力と不思議』(国立国語研究所と共催, 一橋講堂)を開催し 372 名の参加があったこと, 今年度は日本語学会の企画による公開シンポジウム『ことばのプロフェッショナル』(2018 年 1 月 20 日(土))を開催すること, 6 月 17 日に加盟学会の運営委員会が行われる予定であることが報告された。

(6) 事務局からの報告

1. 『言語研究』の公開入札について

昨年度と同様, 今年度も実施の予定である。

2. 会費滞納者への督促について

昨年度と同様, 常任委員による督促を含め様々な方法で督促を行う予定である。

3. 今年度のメルマガスケジュールについて

今年度のメールマガジンの配信予定内容を確認した。

4. CIPL 文献リスト作成作業について

前年度に引き続き, 文献リスト作成を平子達也氏に依頼したことが報告された。

5. 日本学術振興会育志賞について

『言語研究』に論文が掲載された大学院生 1 名を推薦することが報告された。

(7) 聴覚障害を有する会員への支援について

・次回大会で手話通訳の申し込みが 1 件あったことが報告された。

(8) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト(採否)について

・1 件の申請について, メール審議により不採択としたことが報告された。

(9) 常任委員の今年度の役割分担について

・各部門の担当者が資料によって確認された。

[審議事項]

- (1) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの事後評価について
 - ・プロジェクト代表者により提出された研究報告書および経理報告書の確認を行い、承認した。
- (2) 2016年度決算について
 - ・2016年度決算書を検討し、それを承認した。
- (3) オンライン選挙および選挙日程について
 - ・オンライン選挙を実施した場合の手順と経費の確認を行い、オンライン選挙の導入を決定した。またそれに伴い、会則と選挙規則の改定および選挙細則の廃止を評議員会に提案することを決定した。
- (4) 「委員長等への必要経費補助の支払いに関する申し合わせ」について
 - ・『言語研究』投稿・査読システム(Editorial Manager)導入に伴い、編集補助アルバイト費の減額を決定した。
- (5) 2017年度予算について
 - ・2017年度予算について審議し、予算案を作成した。
- (6) 80周年記念事業について
 - ・言語学会50周年から80周年までの30年間の『日本言語学会80年の歩み』刊行が計画中であることが報告された。また2018年度に実施される春季・秋季大会と夏期講座において80周年を記念する事業を行うことを決定した。
- (7) Yuki Kuroda Student Fellowship Fundについて
 - ・支援のための諸案を検討した結果、会員から寄付金を募り、学会からの寄付(10万円)と併せて送金する案を評議員会に諮ることを決定した。
- (8) 保育室の運営方法について(アンケート結果)
 - ・保育室の運営方法についてのアンケート結果により、現行の保育室設置を希望する意見が多数であることを確認した。
- (9) 2018年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(国際情報発信強化、研究成果

公開発表)の応募について

- ・国際情報発信強化に加え、80周年記念事業のため研究成果公開発表に応募することを決定した。
- (10) 『言語研究』の追悼文について
 - ・顧問の追悼文掲載は事務局の担当とし、寄稿者に会長経験者を含めるという申合せが確認された。

——評議員会——

2017年度第1回評議員会

日時：2017年6月24日(土) 10:00~12:30
 場所：首都大学東京南大沢キャンパス 本部棟1階大会議室(〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1)

出席者：窪菌晴夫(会長)、加藤重広、佐々木冠、小泉政利、後藤 斉、池田 潤、井上 優、上野善道、荻野綱男、生越直樹、風間伸次郎、河内一博、菊地康人、北原久嗣、木部暢子、澤田英夫、滝浦真人、長屋尚典、西村義樹、野田尚史、長谷川信子、林 徹、早津恵美子、松森晶子、三宅知宏、鷲尾龍一、渡辺 己、佐久間淳一、玉岡賀津雄、堀江 薫、有田節子、梶 茂樹、金水 敏、定延利之、千田俊太郎、藤代 節、松本 曜、由本陽子、吉田和彦、米田信子、桐生和幸、塚本秀樹、江口 正、金 智賢、平子達也(以上、評議員44名)

委任状：25名

オブザーバー：久保智之(会計監査委員)、内海敦子(大会運営委員長)、中谷健太郎(広報委員長)、金城由美子、内藤真帆(以上、事務局委員)

議事に先立ち、5月3日に逝去された井上和子氏(元会長、言語学会顧問)の冥福を祈り、黙祷が行われた。また会場校を代表して首都大学東京の本間猛氏より挨拶がなされた。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第155回大会(2017年秋季大会):2017年11月25～26日,立命館大学衣笠キャンパス(大会実行委員長:有田節子氏)
 - 第156回大会(2018年春季大会):2018年6月23～24日(予定),東京大学本郷キャンパス(大会実行委員長:西村義樹氏)
 - 第157回大会(2018年秋季大会):2018年11月17～18日(予定),京都大学吉田キャンパス(大会実行委員長:吉田和彦氏)
- (3) 2017年度科学研究費研究成果公開促進費について
 - ・研究成果公開促進費(国際情報発信強化)に応募したが,不採択であったことが報告された。
- (4) 2018年度科学研究費補助金研究成果公開促進費の応募について
 - ・研究成果公開促進費(国際情報発信強化)に今年度も応募すること,および研究成果公开发表にも応募の予定であることが報告された。
- (5) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (6) 言語系学会連合からの報告
 - ・言語系学会連合運営委員である小林正人氏より,2016年度は幹事学会として,2017年1月21日に公開シンポジウム『オノマトベの魅力と不思議』(国立国語研究所と共催,一橋講堂)を開催し372名の参加があったこと,今年度は日本語学会の企画による公開シンポジウム『ことばのプロフェッショナル』(2018年1月20日(土))を開催すること,6月17日に加盟学会の運営委員会が行われたことが報告された。
- (7) 事務局からの報告

1. 『言語研究』の公開入札について
 - 5月末に入札および開札を行った結果,昨年度と同様,今年度も『言語研究』の印刷を中西印刷に委託することが決定した。
2. 日本学術振興会育志賞について
 - 『言語研究』に論文が掲載された大学院生1名を推薦することが報告された。
3. 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの事後評価について
 - プロジェクト代表者により提出された研究報告書および経理報告書の確認を常任委員会で行い,承認したことが報告された。
4. 80周年記念事業について
 - 2018年度に春季大会・秋季大会・夏期講座において80周年を記念する事業を行うことが報告された。
5. 保育室の運営方法について(アンケート結果)
 - 保育室の運営方法についてのアンケート結果によると現行の保育室設置を希望する意見が多数であること,および現行の保育室運営方法を継続することが報告された。
6. 「委員長等への必要経費補助の支払いに関する申し合わせ」について
 - 『言語研究』投稿・査読システム(Editorial Manager)導入にともない,編集委員長補佐経費補助を減額することが報告された。
- (8) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの選考結果について
 - ・1件の申請について,常任委員会のメール審議により不採択としたことが報告された。

[審議事項]

- (1) 2016年度決算について **[別表1参照]**
 - ・2016年度決算案について説明がなされた後,久保智之会計監査委員より適正との報告があり,原案通り承認された。
- (2) オンライン選挙および選挙日程について

- ・オンライン選挙を実施した場合の手順と経費の確認を行い、賛成多数によりオンライン選挙の導入を決定した。
- (3) 会則および選挙規則の改定について【別記】
- ・オンライン選挙導入に伴い、会則、選挙規則の改定と選挙細則の廃止を賛成多数により決定した。得票数の上位から会長、編集委員長、会計監査委員、評議員の順番で決定する旨を申し合わせに加えること、また選挙前に名簿の誤記に関する意義申し立ての機会を設ける方向で検討し、その可否と方法は常任委員会に一任することが決定した。
- (4) 2017年度予算について【別表2参照】
- ・2017年度予算案について検討を行った結果、賛成多数により原案通り承認された。
- (5) Yuki Kuroda Student Fellowship Fundについて
- ・アメリカ言語学会 (Linguistic Society of America, LSA) が故黒田成幸氏の遺志を実現するために開始した Yuki Kuroda Student Fellowship Fund の募金事業に日本言語学会としても積極的に協力することを決定した。具体的には、学会ホームページやメルマガ等でこの事業を会員に周知して会員から寄付金を募り、言語学会からの寄付金 10 万円とあわせて LSA に送金することが承認された。
- (6) その他
- ・シニア会員および役員の定年の新設については、次の執行部に引き継ぐこととする。

——編集委員会——

- (1) 2017年3月20日より、J-STAGE 提供の投稿・審査システム (Editorial Manager。以下、EM) の運用を開始した。それに伴って執筆要項を一部改定した。現在、『言語研究』への投稿は修正再投稿も含めて、原則的にすべて EM を通じて行っている。詳しくは、学会ホーム

ページを参照されたい。

- (2) 『言語研究』第154号 (2018年9月刊行予定) では「焦点および焦点関連の現象をめぐって」というテーマで特集論文を募集する。原稿締め切りは2017年12月31日。
- (3) 2016年度の『言語研究』への投稿は51件 (再投稿も含む)、掲載論文は11本で採択率は22%となった。

——大会運営委員会——

2017年度第1回大会運営委員会

日時：2017年4月2日 (日) 11:00～16:00
 場所：首都大学東京 (南大沢キャンパス)
 出席者：内海敦子 (大会運営委員長)、田村幸誠 (副委員長)、山越康裕 (副委員長)、尾谷昌則、越智正男、小野 創、金善美、中村 渉、堀 博文、三宅知宏

[報告事項]

- (1) 第153回大会 (福岡大学) でのトラブル対応とそれを踏まえた取り組みについて、大会運営委員長より報告がなされた。
- (2) 第154回大会 (首都大学東京) の準備状況について、大会運営委員長より、報告がなされた。

[審議事項]

- (1) 第154回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき、口頭発表56件 (応募83件うち受理82件)、ポスター発表6件 (応募6件)、ワークショップ2件 (応募2件) を採択することとした。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は8会場7本 (移動10分) とし、各発表の振り分け、会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。
- (3) 大会実行委員長より提案されたシンポジウム・ワークショップ・口頭発表・ポスター発表会場、受付、書店展示、保育室、休憩室、懇親会などの各種会場の設定について検討を行った。

- (4) 応募要旨作成要項について、変更の検討を行った。その結果、参考文献のみを2ページ目に記載してよいこととし、その他の規程（フォントの大きさや余白）については遵守し、そうでない場合は審査対象としないことを、学会ホームページの規程に明記することを決定した。

——広報委員会——

1. 学会からのお知らせ（大会情報、論文賞、大会発表賞、投稿規程など）と学会関連情報（公募情報、研究会情報など）を随時更新した。
2. ウェブサイトの情報に更新漏れなどがないかを広報委員でおおよそチェックした。それに基づき、以下の改正の必要性が指摘された。aとb-iについては対応済み。b-ii, iiiについては対応予定である。
 - a. 日本語学会会則等のページの構成がわかりにくいとの指摘があり改善策を検討したが、土台のコンテンツマネジメントシステム XOOOPS の仕様に阻まれ、簡単な解決方法が存在しないことが分かった。そこで規約類をPDF化してリンクを張るという方法で一応の解決をみた。
 - b. 規約類はExcelに流し込んだ上で、PDF化したが、その過程でいくつかの不具合が見つかり、簡単なものは修正済み。他の目立った修正事項は以下の通り。
 - i. 「規程」という表記と「規定」という表記が混在しているところがある。「規定」は (i) 動詞としてつかうか、(ii) 規程の中の項目に対して使うという慣例があるようであるのでそれに従い、以下の「規定」を「規程」に変更した。
 - (1) 「日本語学会個人情報取扱規定」→「日本語学会個人情報取扱規程」
 - (2) 同規程第1条、および第9条の2における「規定」→「規程」
 - ii. 規程の英語化が不完全であるので、対応する予定。現状英語化されていない規則・内規等は現在英文ページでも日本語版PDFをリンクしている。「会費未納者の取り扱いについて」は昨年より大幅に変更されたが英語版が古いまま、これをそのまま掲げておくのは問題があるので、英語版をいったん取り下げ、応急的に日本語版PDFにリンクしている。
 - iii. 「学会の基本方針」を更新予定。
3. 「日本語学会会則」「日本語学会選挙規則」改定にともない新しいPDFファイルをアップロードし、「選挙細則」の廃止にともない、ウェブサイトから取り下げた。
4. 「学会関連ニュース」への掲載依頼に決まったガイドラインがなく、委員会およびウェブマスターが都度対応するのに時間を取られていた問題を改善するため、掲載依頼のガイドラインを取り決め、ウェブサイトに載せた。

——夏期講座委員会——

- ・夏期講座2018は、2018年8月20日（月）から8月25日（土）まで東京外国語大学府中キャンパスで開催。詳細は、年末年始を目途に学会ホームページに掲載する。参加申し込みは2018年4月開始を予定。

——事務局——

2016年度会計監査

日時：2017年5月18日（木）12:00～16:00
 場所：日本語学会事務支局（中西印刷学会フォーラム）

出席者：久保智之、田野村忠温（以上会計監査委員）、窪晴樹夫（会長）、野田尚史（事務局長）、国料高子（事務支局）

久保智之、田野村忠温両委員により2016年度決算書と関係書類について監査が実施された。

【別表 1】2016 年度日本言語学会決算

自 2016 年 4 月 至 2017 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,265,500	刊 行 費	3,240,648
雑 誌 売 上	1,124,000	発 送 費	451,186
科学研究費補助金	0	事 務 委 託 費	4,406,400
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	3,549,971
預 金 金 利	1,086	評 議 員 会 費	196,974
大会関係収入	2,139,250	常 任 委 員 会 費	773,277
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	626,629
寄 付 金	0	大 会 運 営 委 員 会 費	517,925
雑 益	53	広 報 委 員 会 費	282,000
基金から繰入	1,000,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	16,000
夏期講座準備金返納	0	学 会 賞 選 考 委 員 会 費	324,662
		事 務 局 費	779,366
		学 会 賞 費	182,800
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	500,000
		夏 期 講 座 経 費	196,716
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		C I P L 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助 費	90,600
		通 信 費	484,862
		消 耗 品 費	153,657
		雑 費	32,400
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	388,800
		法 人 税	70,000
		予 備 費	0
		(基 金 へ の 繰 入)	
		選 挙 関 係 積 立 金	300,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	0
		夏 期 講 座 積 立 金	0
収 入 合 計	17,529,889	支 出 合 計	17,734,873
前 期 繰 越 金	5,693,864	次 期 繰 越 金	5,488,880
計	23,223,753	計	23,223,753

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内通常会員	11,423,000
国内維持会員	60,000
国内学生会員	1,008,000
国内団体会員	570,500
国内賛助会員	30,000
在外通常会員	154,000
在外学生会員	20,000

合 計 13,265,500

雑誌売上

書店販売	1,124,000
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	796,400
丸善	182,700
紀伊國屋書店	144,900
事務局販売	0

合 計 1,124,000

科学研究費補助金

0

科学研究費補助金利息

0

預金金利

1,086

大会関係収入

大会参加費	1,850,000
152 回大会	1,090,000
153 回大会	760,000
大会出店料	280,000
152 回大会 1 スペース 2 日（11 社）	110,000
2 スペース 2 日（1 社）	20,000
3 スペース 2 日（1 社）	30,000
153 回大会 1 スペース 2 日（10 社）	100,000
2 スペース 2 日（1 社）	20,000
予稿集売上	3,000
145 回大会	500
152 回大会	2,500
託児関係収入	6,250

合 計 2,139,250

広告料

0

寄付金

0

雑益（前年度未払金清算時の差益）

53

基金から繰入

夏期講座積立金	1,000,000
---------	-----------

夏期講座準備金返納

0

◇支出内訳（単位：円）

刊行費		印刷部数	各号共に 2,300 部
内 訳	150 号 (260 p.)	151 号 (148 p.)	計 (408 p.)
印刷費	2,037,312	1,166,400	3,203,712
抜刷代	24,624	12,312	36,936
合 計	2,061,936	1,178,712	3,240,648

※組版・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』一斉発送料	150 号	266,440
	151 号	184,746
合 計		451,186

事務委託費

2016 年 4 月分～2017 年 3 月分
 日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

4,406,400

大会関係費

内 訳	第 152 回	第 153 回	計
プログラム印刷費	108,000	108,000	216,000
予稿集印刷費	945,000	1,023,840	1,968,840
その他印刷費 / 備品	84,957	72,213	157,170
大会関係発送費	145,023	154,980	300,003
大会費	371,148	245,124	616,272
講師謝金等	41,760	66,822	108,582
託児関係費	28,088	11,000	39,088
手話通訳謝礼	17,416	0	17,416
大会実行委員長経費補助	30,000	30,000	60,000
ノートテイキング補助	0	45,000	45,000
応募フォーム管理費	10,800	10,800	21,600
合 計	1,782,192	1,767,779	3,549,971

評議員会費

会議費（年 2 回）

196,974

常任委員会費

旅費（年2回）	725,050
会議費（年2回）	48,227
合 計	773,277

編集委員会費

旅費（年1回+出張校正等）	137,020
英文校閲費	9,609
アルバイト費（編集補助）	480,000
合 計	626,629

大会運営委員会費

旅費（年2回）	495,712
会議費（年2回）	18,140
英文校閲費	3,339
コピー代	734
合 計	517,925

広報委員会費

ホームページ保守管理委託費	162,000
webmaster 経費補助	120,000
合 計	282,000

夏期講座委員会費

旅費	16,000
----	--------

学会賞選考委員会費

旅費（年3回）	292,860
会議費（年3回）	37,348
英文校閲費	4,454
合 計	334,662

事務局費

旅費（会計監査，事務局委員出張費，科研費実地検査）	162,680
会議費（会計監査）	8,640
事務局長，事務局委員活動費	600,000
消耗品費	8,046
合 計	779,366

学会賞費	
論文賞副賞	100,000
発表賞副賞	40,000
旅費	42,800
<hr/>	
合 計	182,800
多様性プロジェクト（公募型）費	500,000
夏期講座経費	196,716
言語系学会連合費	50,000
CIPL 負担金	120,000
CIPL 言語学文献一覧編集補助費	90,600
通信費	
切手購入、通常発送費	24,358
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	27,000
会費請求送料	130,194
会費督促送料	16,892
オンラインクレジット決済手数料（202 件）	92,903
自動引落手数料（302 件）	57,731
送金手数料	69,176
残高証明発行手数料	1,506
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	32,018
大会関係送料（プログラム以外）	33,084
<hr/>	
合 計	484,862
消耗品費	
振替用紙印刷費	39,717
封筒印刷費	100,400
事務処理票	13,500
<hr/>	
合 計	153,617
雑費	
彙報 PDF 作成	32,400
名簿作成費	0
選挙関係費	0

税理士顧問料

顧問料	226,800
年末調整・法定調書作成	32,400
決算料	129,600

合 計	388,800
-----	---------

法人税

法人市民税	50,000
法人府民税	20,000

合 計	70,000
-----	--------

予備費

0

基金への繰入

選挙積立金	300,000
-------	---------

◇ 2016 年度決算 予算・実績対照表

収入 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	12,700,000	13,265,500	565,500
雑誌売上	1,000,000	1,124,000	124,000
科学研究費補助金	0	0	0
科学研究費補助金利息	0	0	0
預金金利	1,500	1,086	△ 414
大会関係収入	2,000,000	2,139,250	139,250
広告料	0	0	0
寄付金	0	0	0
雑益	0	53	53
基金から繰入	1,000,000	1,000,000	0
夏期講座準備金返納	0	0	0
収入合計	16,701,500	17,529,889	828,389
前期繰越金	5,693,864	5,693,864	0
合計	22,395,364	23,223,753	828,389

支出 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	4,000,000	3,240,648	759,352
発送費	600,000	451,186	148,814
事務委託費	4,406,400	4,406,400	0
大会関係費	4,300,000	3,549,971	750,029
評議員会費	300,000	196,974	103,026
常任委員会費	900,000	773,277	126,723
編集委員会費	800,000	626,629	173,371
大会運営委員会費	800,000	517,925	282,075
広報委員会費	300,000	282,000	18,000
夏期講座委員会費	100,000	16,000	84,000
学会賞選考委員会費	700,000	324,662	375,338
事務局費	800,000	779,366	20,634
学会賞	200,000	182,800	17,200
多様性プロジェクト(公募型)費	500,000	500,000	0
夏期講座経費	1,000,000	196,716	803,284
言語系学会連合費	50,000	50,000	0
C I P L 負担金	120,000	120,000	0
C I P L 言語学文献一覧編集補助費	200,000	90,600	109,400
通信費	1,000,000	484,862	515,138
消耗品費	350,000	153,657	196,343
雑費	0	32,400	△ 32,400
名簿作成費	0	0	0
選挙関係費	0	0	0
税理士顧問料	450,000	388,800	61,200
法人税	70,000	70,000	0
予備費	148,964	0	148,964
(基金への繰入)			
選挙関係積立金	300,000	300,000	0
多様性プロジェクト(公募型)積立金	0	0	0
夏期講座積立金	0	0	0
支出合計	22,395,364	17,734,873	4,660,491
次期繰越金	0	5,488,880	△ 5,488,880
合計	22,395,364	23,223,753	△ 828,389

◇資産勘定

2017年3月31日(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	286,765	国内通常	179,000
みずほ銀行口座	6,228,458	国内学生	4,000
郵便振替口座	370,116	在外通常	7,000
未収金*	1,325,728	前受購読料	151,200
		未払金**	2,377,312
		源泉税預り金	3,675
		次期繰越	5,488,880
計	8,211,067	計	8,211,067

*未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。
2016年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
雑誌売上(松香堂分)	796,400
大会出店料	20,000
『言語研究』印刷費過払分返金	509,328
合計	1,325,728

**未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。
2016年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
事務委託費2~3月	734,400
HP2016年度	162,000
税理士顧問料1~3月	48,600
税理士決算料	129,600
法人税	70,000
発送用角3封筒	32,400
『言語研究』151号印刷代	1,166,400
『言語研究』151号抜刷代	12,312
大会発表応募フォーム	21,600
合計	2,377,312

◇基金 決算

基金 損益計算書

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	10,904,256	一般会計へ支出	1,000,000
一般会計から繰入	300,000		
定期預金金利	338		
収入合計	11,204,594	支出合計	1,000,000
		次期繰越金	10,204,594
計	11,204,594	計	11,204,594

基金 資産勘定

2017年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	6,400,000	積立金	10,204,594
京都銀行定期預金口座	3,804,594		
計	10,204,594	計	10,204,594

○基金内訳（目的別）

2017年3月31日 (単位：円)

記念大会積立金	2,400,492
夏期講座積立金	2,700,685
危機言語プロジェクト積立金	702,925
e-ジャーナル積立金	2,500,492
言語学普及積立金	500,000
多様性プロジェクト（公募型）積立金	800,000
選挙積立金	600,000

計	10,204,594
---	------------

○基金内訳（銀行別）

2017年3月31日（単位：円）

銀行名	預かり番号	名目	金額
京都銀行	003	記念大会積立金	1,000,492
みずほ銀行	038	〃	1,200,000
みずほ銀行	060	〃	200,000
みずほ銀行	051	夏期講座積立金	700,000
みずほ銀行	035	〃	600,000
京都銀行	005	〃	1,400,685
みずほ銀行	039	危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	001	〃	402,925
京都銀行	004	e-ジャーナル積立金	1,000,492
みずほ銀行	044	〃	500,000
みずほ銀行	037	〃	1,000,000
みずほ銀行	047	言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	050	多様性プロジェクト（公募型）積立金	300,000
みずほ銀行	059	〃	500,000
みずほ銀行	061	選挙積立金	300,000
みずほ銀行	063	〃	300,000
計			10,204,594

【別表2】2017年度日本語学会予算

自 2017年4月 至 2018年3月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	12,000,000	刊 行 費	3,500,000
雑 誌 売 上	1,000,000	発 送 費	600,000
科学研究費補助金	0	事 務 委 託 費	4,406,400
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	3,000,000
預 金 金 利	1,000	評 議 員 会 費	300,000
大会関係収入	2,000,000	常 任 委 員 会 費	900,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	700,000
寄 付 金	0	大 会 運 営 委 員 会 費	800,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	500,000
基金からの繰り入れ	600,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
夏期講座準備費返納	0	学 会 賞 選 考 委 員 会 費	500,000
		事 務 局 費	900,000
		学 会 賞 費	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	0
		夏 期 講 座 経 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言語学文献一覧編集補助	200,000
		通 信 費	800,000
		消 耗 品 費	350,000
		雑 費	0
		選 挙 関 係 費	900,000
		税 理 士 顧 問 料	334,800
		法 人 税	70,000
		予 備 費	758,680
		(基金への繰入)	
		選 挙 関 係 積 立 金	0
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
		基 金 預 け 替 え	0
収 入 合 計	15,601,000	支 出 合 計	21,089,880
前 期 繰 越 金	5,488,880	収支差額(次期繰越金)	0
合 計	21,089,880	合 計	21,089,880

【別記】日本言語学会大会会則，選挙規則の改定

○日本言語学会会則の改定：第2章「会員」

《旧》

第2章

第6条 本会の会員は，通常会員，維持会員，賛助会員，名誉会員，学生会員の5種とする。

第7条 通常会員は，本会の趣旨に賛成し，所定の手続（注）を経て，本会に登録された個人，および団体（図書館，研究室，書店等）とする。

2 通常会員は，所定の手続（注）を経て維持会員となることができる。

3 学生会員は，本会の趣旨に賛成し，所定の手続（注）を経て，本会に登録された個人とする。

第8条 賛助会員は，本会の趣旨に賛成し，本会のために財政的援助を与える個人その他で，評議員会の承認を経て，本会に登録されたものとする。

第9条 名誉会員は，言語研究において顕著な功績の認められる個人で，評議員会の推挙により，会員総会において承認されたものとする（注）。

第10条 会員は，諸種の会合および事業の通知を受け，機関誌の配布を受ける。また，事業に参加することができる。

2 個人会員は，所定の手続を経て，研究集会または機関誌上においてその研究を発表することができる。

3 個人会員は，会長，編集委員長，会計監査委員，評議員の選挙権および被選挙権を有する。ただし，外国在住の会員は，当分の間，選挙権および被選挙権を有しない。学生会員は，選挙権および被選挙権を有しない。

（略）

（2015年11月28日修正案可決）

《新》

第2章

第6条 本会の会員は，通常会員，維持会員，賛助会員，名誉会員，学生会員の5種とする。

第7条 通常会員は，本会の趣旨に賛成し，所定の手続（注）を経て，本会に登録された個人，および団体（図書館，研究室，書店等）とする。

2 通常会員は，所定の手続（注）を経て維持会員となることができる。

3 学生会員は，本会の趣旨に賛成し，所定の手続（注）を経て，本会に登録された個人とする。

第8条 賛助会員は，本会の趣旨に賛成し，本会のために財政的援助を与える個人その他で，評議員会の承認を経て，本会に登録されたものとする。

第9条 名誉会員は，言語研究において顕著な功績の認められる個人で，評議員会の推挙により，会員総会において承認されたものとする（注）。

第10条 会員は，諸種の会合および事業の通知を受け，機関誌の配布を受ける。また，事業に参加することができる。

2 通常会員，維持会員，学生会員の中の個人（以下，個人会員）は，所定の手続を経て，研究集会または機関誌上においてその研究を発表することができる。

3 個人会員は，会長，編集委員長，会計監査委員，評議員の選挙権および被選挙権を有する。ただし，外国在住の会員は，被選挙権を有しない。学生会員は，選挙権および被選挙権を有しない。

（略）

（2015年11月28日修正案可決）

（2017年6月24日修正案可決）

○日本語学会選挙規則の改定

《旧》

1. 会長、編集委員長、会計監査委員、評議員は、所定の手続きによって、個人会員の互選により選出する。選出は、選挙のある年度の10月末日現在の選挙権および被選挙権を有する者の名簿（選挙人名簿）による。
2. 会長、編集委員長および会計監査委員の選出は、最多得票数による。同数の場合は抽選による。
3. 編集委員長、会計監査委員に支障が生じた場合は、選挙の際の次点者を以てこれを補う。この場合の任期は残任期間とする。
4. 評議員は、次の7地区別に、各地区の定数によって選出する。各会員は在住地によって各地区に分属するものとする。
 - 1) 北海道 2) 東北 3) 関東 4) 中部 5) 近畿 6) 中国・四国 7) 九州・沖縄
5. 各地区の評議員の定数は、前記選挙規則第1の選挙人名簿による当該地区在住の個人会員数の按分比例によって定める（注）。ただし、総定数は約70名とする。
6. 投票は10名以内の連記による無記名投票とする。会員は、自分の属する地区以外に在住する会員にも評議員候補者として投票することができる。
7. 評議員選出は、得票数の多いものから順次、地区別定数に達するものまでとし、当落の境界に同数得票者が生じた場合は抽選による。
8. 評議員の欠員は補充しない。
9. 会長、編集委員長、会計監査委員が任期の途中で交替した場合は、前任者も後任者も、在任期間が1年以上であれば、次期の被選挙権を有しない。
10. 選挙管理委員会は、会長と8名の選挙管理委員を以て構成する。選挙管理委員長は、会長を以てこれに当てる。

《新》

1. 会長、編集委員長、会計監査委員、評議員は、所定の手続きによって、個人会員の互選により選出する。選挙権・被選挙権は当年度の会費をその年度の10月末日までに完納した個人会員が有する。選出は、選挙のある年度の10月末日現在の選挙権および被選挙権を有する者の名簿（選挙人名簿）による。
2. 会長、編集委員長および会計監査委員の選出は、最多得票数による。同数の場合は抽選による。
3. 編集委員長、会計監査委員に支障が生じた場合は、選挙の際の次点者を以てこれを補う。この場合の任期は残任期間とする。
4. 評議員は、次の7地区別に、各地区の定数によって選出する。各会員は在住地によって各地区に分属するものとする。
 - 1) 北海道 2) 東北 3) 関東 4) 中部 5) 近畿 6) 中国・四国 7) 九州・沖縄
5. 各地区の評議員の定数は、前記選挙規則第1の選挙人名簿による当該地区在住の個人会員数の按分比例によって定める（注）。ただし、総定数は約70名とする。
6. 投票は10名以内の連記による無記名投票とする。会員は、自分の属する地区以外に在住する会員にも評議員候補者として投票することができる。
7. 評議員選出は、得票数の多いものから順次、地区別定数に達するものまでとし、当落の境界に同数得票者が生じた場合は抽選による。
8. 評議員の欠員は補充しない。
9. 会長、編集委員長、会計監査委員が任期の途中で交替した場合は、前任者も後任者も、在任期間が1年以上であれば、次期の被選挙権を有しない。
10. 選挙管理委員会は、会長と4名の選挙管理委員を以て構成する。選挙管理委員長は、会長を以てこれに当てる。

11. 選挙管理委員は、選出された会長の在住地区の個人会員中より評議員が選出する。ただし、各機関内（大学付置の研究所等はその大学に含まれる）より選出される選挙管理委員の数は1名を限度とする。任期は3年とし、連続3選は許さない。
12. 選挙管理委員の選挙は、4名連記の無記名投票とする。
13. 選挙管理委員の当落の境界に同数得票者が生じた場合は、抽選による。
14. 選挙管理委員に欠員が生じた場合は、次点者を以てこれを補う。補欠の選挙管理委員の任期は残任期間とする。

注記

○第5について

計算方法は次の式により、端数は四捨五入する。

各地区の評議員定数 = 70名 × (当該地区の選挙権者総数 / 選挙権者総数)

- (1984年10月13日修正案可決)
- (2004年6月19日修正案可決)
- (2008年6月21日修正案可決)
- (2009年6月20日修正案可決)

11. 選挙管理委員は、選出された会長の在住地区の個人会員中より評議員が選出する。ただし、各機関内（大学付置の研究所等はその大学に含まれる）より選出される選挙管理委員の数は1名を限度とする。任期は3年とし、連続3選は許さない。
12. 選挙管理委員の選挙は、2名連記の無記名投票とする。
13. 選挙管理委員の当落の境界に同数得票者が生じた場合は、抽選による。
14. 選挙管理委員に欠員が生じた場合は、次点者を以てこれを補う。補欠の選挙管理委員の任期は残任期間とする。

注記

○第5について

計算方法は次の式により、端数は四捨五入する。

各地区の評議員定数 = 70名 × (当該地区の選挙権者総数 / 国内在住の選挙権者総数)

○第10, 12について

2018年4月より実施する。

- (1984年10月13日修正案可決)
- (2004年6月19日修正案可決)
- (2008年6月21日修正案可決)
- (2009年6月20日修正案可決)
- (2017年6月24日修正案可決)

第154回大会

期日 2017年6月24日(土)・6月25日(日)

会場 首都大学東京

公開シンポジウム 6月25日(日) 13:40～16:40(6号館1階110教室)

「言語への脳遺伝学的接近」

		司会	本間 猛
(S1)	発達期における脳と言語—普遍性と固有性の共存		保前 文高
(S2)	齧歯類を用いた音声コミュニケーション解析と遺伝的・環境的影響		大隅 典子
(S3)	自閉症・言語障害などの原因遺伝子 AUTS2 の解析		星野 幹雄
(S4)	ヒトは、いつ、どのようにして言語を持つようになったのか—言語の起源と進化をめぐって		池内 正幸

口頭発表

—第1日(6月24日(土)) 13:00～17:40—

・A会場

(A1)	13:00～	When an onomatopoeia triggers different semelfactive interpretations: An experimental study	Shoko SHIDA Natsuno AOKI Kentaro NAKATANI
(A2)	13:40～	「誰も」を含む項・述語依存関係の処理—自己ペース読文実験による検討—	津村 早紀 広瀬 友紀
(A3)	14:20～	タロコ語文理解実験からみる基本語順と普遍的認知特性について—事象関連電位を指標として—	矢野 雅貴 新国 佳祐 小野 創 木山 幸子 里 麻奈美 Tang Apay Ai-yu
(A4)	15:00～	中国語を母語とする日本語学習者による正順とかき混ぜ語順の受動文の理解	謝 尚琳 小泉 政利
(A5)	15:50～	非対格動詞と非能格動詞の漢語動詞の読み時間の比較	吉田 絢奈 宮本エジソン
(A6)	16:30～	高齢女性による終助詞「ね」の高評価：対人的文末モダリティ認知の調査から	木山 幸子
(A7)	17:10～	読み時間と節境界について	浅原 正幸

・B会場

(B1)	13:00～	類似言語におけるウェブコーパス整備：マレー語とインドネシア語の言語判定の事例	野元 裕樹 赤瀬川史朗 塩原 朝子
(B2)	13:40～	A Reflection on the Clustering in Corpus Linguistics	Akitaka YAMADA
(B3)	14:20～	敬語の習得時期とその話者属性差：岡崎敬語調査資料の分析	柳村 裕
(B4)	15:00～	2015年・2016年の日本語歌謡曲における特殊モーラについて	平田 秀

(B 5)	15:50 ~	ガナン語における音節末閉鎖音付加	藤原 敬介
(B 6)	16:30 ~	アイスランド語における疑問文のイントネーション	三村 竜之
(B 7)	17:10 ~	ポーランド語の語形成における子音の硬軟の統一性	渡部 直也
。C 会場			
(C 1)	13:00 ~	英語の不定詞関係節・目的節における空所の埋め込みの深さについて	西前 明
(C 2)	13:40 ~	ドイツ語の完了助動詞選択に於けるアスペクトの影響	藤井 俊吾
(C 3)	14:20 ~	Unaccusativity and Possessor Raising in Chinese	Linyan QU Satoshi OKU
(C 4)	15:00 ~	Language Acquisition of Parametric Variation in Clausal Comparatives based on Subset Principle	Ryosuke HATTORI
(C 5)	15:50 ~	Counterfactuality of deontic <i>should have</i> in English	Hiroaki SAITO
(C 6)	16:30 ~	Agentivity in the unaccusative structure	Kaori MIURA
(C 7)	17:10 ~	Introducing Quote in Japanese and Its Crosslinguistic Relevance	Koji SHIMAMURA
。D 会場			
(D 1)	13:00 ~	シダーマ語の「言う」／「する」を使った表現の慣用化：脱イデオフォノン化と語形成	河内 一博
(D 2)	13:40 ~	クリック子音体系の言語獲得：グイ語事例研究	中川 裕
(D 3)	14:20 ~	ランバ語の2種類の Anterior— <i>li</i> -VR- <i>ile</i> 形式と - <i>aa</i> -VR- <i>a</i> 形式—	牧野 友香
(D 4)	15:00 ~	スワヒリ語マクンドゥチ方言における主題を標示する指示詞の縮約形	古本 真
(D 5)	15:50 ~	タイ語小辞 <i>kǎw</i> の対話者志向の機能：会話コーパスの分析	高橋 清子
(D 6)	16:30 ~	オリア語における、同一格の連続を許す構文環境と、許さない構文環境	山部 順治
(D 7)	17:10 ~	ボボロカ語 * <i>tí</i> 「やつ」の文法化	中本 舜
。E 会場			
(E 1)	13:00 ~	ベルシア語の関係節からみた「語」における意味と形式のミスマッチの問題について	榎村 輝
(E 2)	13:40 ~	フィンランド語の非定形節における主格目的語	梅田 遼
(E 3)	14:20 ~	満洲語文語の従属節属格主語の機能について	山崎 雅人
(E 4)	15:00 ~	ダグール語の述語人称欠如による主語の非主題化	山田 洋平
(E 5)	15:50 ~	エスキシェヒル・カラチャイ語の有声唇歯摩擦音	菅沼健太郎 藤家 洋昭
アクバイ・オカン・ハルク			
(E 6)	16:30 ~	トルコ語、アゼルバイジャン語の複数接辞のバリエーション	青山 和輝
(E 7)	17:10 ~	トゥバ語の再帰	江畑 冬生
。F 会場			
(F 1)	13:00 ~	日本の諸方言における「逆使役」— 一通方言的研究に向けて—	林 由華 田村 早苗

- (F 2) 13:40 ~ 主文における主語の形態的具現化：幼児の属格主語と熊本方言の比較から 團迫 雅彦
- (F 3) 14:20 ~ アイヌ語沙流方言の場所表現における「場所名詞」に関する研究 井上 拓也
- (F 4) 15:00 ~ アイヌ語の複雑述語における補文構造 岸本 宜久
- (F 5) 15:50 ~ 北琉球奄美喜界島上嘉鉄方言の疑問詞述語について 白田 理人
- (F 6) 16:30 ~ 宮古語における終止連体形の定動詞性と動詞活用体系の歴史的発展の関係 セリック ケナン
林 由華
- (F 7) 17:10 ~ 南琉球八重山語波照間方言の引用助詞 = te に見られる文法化 麻生 玲子
林 智昭

。G 会場

- (G 1) 13:00 ~ 日本語の可能構文における格付与 中村 渉
- (G 2) 13:40 ~ 「過分義」を表す動補構造および動詞コピー構文に関する考察—構文文法の観点から— 崔 盼盼
- (G 3) 14:20 ~ 演繹とアブダクションに基づいた条件文についての考察：推論アプローチによる通言語的分析 森 創摩
- (G 4) 15:00 ~ 「習得」に関する変化動詞のアスペクト的意味的分析 蘇 丹
- (G 5) 15:50 ~ 統語的複合動詞 V + 疲れるについて 木戸 康人
- (G 6) 16:30 ~ 「地図をたよりに」構文における名詞の臨時的な意味拡張 氏家 啓吾
- (G 7) 17:10 ~ 連体修飾句の振る舞いから見た内包的述語のタイプ分け 三好 伸芳

。H 会場

- (H 1) 13:00 ~ 名詞句内部における未確定表現の認可の方略 中島 優
- (H 2) 13:40 ~ 日本語直接引用節再考—生成文法・日本語学の観点から— 野口 雄矢
- (H 3) 14:20 ~ イディオム断片 DP の関係節化における補文標識と *wh* 関係代名詞の選択について：部分格付与による統一的説明 高橋 洋平
- (H 4) 15:00 ~ 名詞の修飾辞を伴う後置文：移動と削除に基づく分析 木村 宣美
- (H 5) 15:50 ~ Partial Control PRO as an associative plural Asako MATSUDA
- (H 6) 16:30 ~ 日本語の例外的格標示構文における目的語上昇パラドックス 田口 茂樹
- (H 7) 17:10 ~ 日本語間接受動文の被害性と格配列理論 加賀 信広

ワークショップ

—第2日（6月25日（日））10:00～12:00—

ワークショップ 1

- (W 1) 所有の言語学： *To Have, or Not To Have* 企画：石塚 政行
司会・コメンテーター：西村 義樹
コメンテーター：梅谷 博之
- (W 1-1) チェコ語の所有文と存在文が表す全体部分関係 浅岡健志朗

- (W 1-2) バスク語の位置属格と存在文が表す全体部分関係 石塚 政行
 (W 1-3) タガログ語の所有と存在のあいだ 長屋 尚典

ワークショップ 2

- (W 2) スワヒリ語圏アフリカにおける多言語状況の実態 企画・司会：品川 大輔
 一言語接触状況下での多様な言語現象から捉える—
 (W 2-1) スワヒリ語と民族語の code-mixing を含む会話に見られる言語 沓掛沙弥香
 使用の実態
 (W 2-2) 民族語間の言語接触による文法レベルの影響 安部 麻矢
 (W 2-3) スワヒリ語と民族語の言語接触による文法レベルの影響 米田 信子
 (W 2-4) スワヒリ語を基盤とする都市混合言語における新たな文法特徴 品川 大輔
 の創出

ポスター発表

—第 2 日 (6 月 25 日 (日)) 11:30 ~ 12:50—

- (P 1) 共通スラヴ語における前舌母音化の音韻的条件 大山 祐亮
 (P 2) イッド (一度) にロッゾー (六合) ? 語根融合における音韻制 松浦 年男
 限の多様性
 (P 3) 中国語・天津方言の感動詞の記述的研究—「诶 (ei)」を中心 羅 希
 に—
 (P 4) 日本語量化文解釈の方略と選好性について 藏藤 健雄
 井上 雅勝
 松井 理直
 (P 5) 3 つのタイプの認識的不定表現 金子 真
 (P 6) Preverbs and applicative affixes Deokhyun NAM

◇退 会

国内通常会員：3名
国内学生会員：2名
在外通常会員：1名
国内団体会員：1名
7名

◇入 会

国内通常会員：28名
在外通常会員：3名
国内学生会員：55名
86名



日本語学会学会賞報告

第153回大会（2016年 秋季，福岡大学）の大会発表賞（1件）

・山田洋平氏

「タゲール語の2種類の動詞否定形式」

本発表は、タゲール語における2種類の動詞否定形式（前置否定と後置否定）のうち、後置否定が用いられる条件がある種の「期待」に反する場合であることを明らかにするとともに、2種類の否定形式の分布をモンゴル語族全体の中に位置づけたものである。予稿集、スライドともに論旨を明確にまとめてあり、当該言語の知識がなくても理解できる分かりやすい発表であった。



◇本学会の会長を務められた井上和子氏は、2017年5月3日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

2017年度役員

【会長】

窪蘭晴夫

【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶茂樹, 国広哲弥,
柴谷方良, 早田輝洋, 松本克己

【常任委員】

有田節子, 井上優, 上山あゆみ, 加藤重広,
小泉政利, 小林正人, 斎藤衛, 玉岡賀津雄,
吉田和彦

【事務局】

野田尚史(事務局長), 金城由美子, 内藤真帆

【評議員 (71名)】

[北海道]加藤重広, 佐々木冠, 津曲敏郎[東北]
小野尚之, 小泉政利, 後藤斉 [関東] 池田潤,
井上優, 上野善道, 大津由紀雄, 大堀壽夫,
荻野綱男, 生越直樹, 尾上圭介, 影山太郎,
風間伸次郎, 河内一博, 菊地康人, 北原久嗣,
木部暢子, 澤田英夫, 滝浦真人, 角田太作,
長屋尚典, 西村義樹, 野田尚史, 長谷川信子,
林 徹, 早津恵美子, Prashant Pardeshi, 福井
直樹, 松森晶子, 峰岸真琴, 三宅知宏, 鷺尾
龍一, 渡辺己 [中部] 北野浩章, 呉人恵,
斎藤衛, 佐久間淳一, 澤田治美, 玉岡賀津雄,
新田哲夫, 堀江薫, 町田健 [近畿] 有田節子,
上田功, 梶茂樹, 金水敏, 工藤真由美, 定延
利之, 沈 力, 田窪行則, 千田俊太郎, 藤代
節, 益岡隆志, 松本曜, 由本陽子, 吉田和彦,
吉田豊, 米田信子 [中国・四国] 桐生和幸,
酒井弘, 塚本秀樹, 辻星児, 宮崎和人 [九州・
沖縄] 青木博史, 江口正, 狩俣繁久, 金智賢,
平子達也

【編集委員会】

金水敏 (委員長), 家入葉子, 上田功, 江口正,
風間伸次郎, 酒井弘, 高野祐二, 滝浦真人,
堤良一, 松森晶子, 村杉恵子, 吉村公宏,
米田信子

【特別編集委員】

Bjarke Frellesvig, Larry Hyman, Juha Janhunen,
金周源 (Kim Juwon), Christine Lamarre, 富岡
諭 (Satoshi Tomioka)

【大会運営委員会】

内海敦子 (委員長), 尾谷昌則, 越智正男,
小野創, 金善美, 沈 力, 田村幸誠, 中村渉,
新田哲夫, 堀博文, 三宅知宏, 山越康裕

【広報委員会】

中谷健太郎 (委員長), 上山あゆみ, 北原
真冬 (英語ページ webmaster), 呉人恵 (危機
言語担当), 堤良一, 原田なをみ, 那須昭夫
(日本語ページ webmaster)

【夏期講座委員会】

佐久間淳一 (委員長), 小野創, 下地理則,
本多啓, 宮本陽一, 渡辺己

【学会賞選考委員会】

斎藤衛(委員長), 呉人恵, 小泉政利, 滝浦真人,
玉岡賀津雄, 早津恵美子, 吉田和彦

【会計監査委員会】

久保智之, 田野村忠温